

《温故知新プロジェクト》

伝統文化に関する教育活動について  
—富山県立南砺平高等学校を中心として—

梅谷千代子\*<sup>1</sup> 菱田隆昭\*<sup>2</sup> 岩川真紀\*<sup>3</sup>

Educational Activities about the Traditional Culture  
—Focusing on the Efforts of Toyama prefectural Nantotaira High School—

Chiyoiko UMETANI, Takaaki HISHIDA, and Maki IWAKAWA

1. はじめに

伝統文化に関する教育活動について、2006（平成18）年改正の教育基本法では第2条に5つの「教育の目標」が新設された。その目標の第5項に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が明示された。2007（平成19）年改正の学校教育法第21条「義務教育の目標」第3項にも「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と文言が加わった。

さらに、現在の小中学校における教育課程の基準となる2008（平成20）年告示の学習指導要領改定版では、以上の改正教育基本法を踏まえた内容である。それらに基づいて教育現場では「伝統と文化」を尊重する教育活動が取り組まれるようになった。しかし一方では子どもの関心・意欲に即さない形骸化した活動や、単発的あるいはイベント的なものなど学校間に格差があることが指摘されている。

我々は数年来富山県南砺市利賀村における民謡の伝承と地域の活性化について研究を続け、フィールドワークとする利賀小学校では、民謡が山間部の児童に郷土への誇りと自尊感情を育ませるとともに、民謡により内外の世界を知る機会にもなっていることを報告した。

「伝統と文化」を尊重する教育活動は多様な側面を見せつつ、世代を超えた一筋の道が通っているようである。

2. 研究の目的

小中学生から対象を広げ、富山県立南砺平高等学校および同校郷土芸能部を実践例として、伝統文化を学校教育の

現場で行う意義について明らかにすることにある。

3. 研究の方法

富山県立南砺平高等学校および同校郷土芸能部の以下の活動を実践例として考察した。

- 1) 南砺平高等学校の概要
- 2) 郷土芸能部の活動記録
- 3) 全国高等学校総合文化祭

4. 結果および考察

1) 富山県立南砺平高等学校の概要

(1) 富山県立南砺平高等学校の沿革

富山県立南砺平高等学校は、下記沿革の通り、昭和25年に定時制普通科として創立され、昭和37年からは全日制になった。昭和41年には寄宿舎が新設され、寮に寄宿しながら通学する生徒も多い。定員数、名称に変動がありながらも、現在に至っている。

沿革

昭和25年富山県立福野高等学校平分校として、定時制普通科 定員50名 1学級で認可され、下梨小学校、平中学校校舎の一部を借りて開校式・第1回入学式が挙行された。

昭和26年 平村下梨に独立校舎

昭和37年 定時制から全日制普通科

昭和41年 生徒寄宿舎新築

昭和46年 体育館新築

平成7年 平高等学校に校名変更

平成12年 生徒寄宿舎新設

平成17年 南砺総合高等学校平高等学校に校名変更

平成22年 南砺平高等学校に校名変更

平成22年10月 創立60周年記念式典挙行

(2) 富山県立南砺平高等学校教育目標・校訓・教育方針  
教育方針の4つ目に「郷土の自然や伝統文化を愛すると共に広い視野に立って国際社会に貢献できる人間の育成」

\*<sup>1</sup> 東京家政大学 (Tokyo Kasei University)

\*<sup>2</sup> 和洋女子大学 (Wayo Women's University)

\*<sup>3</sup> 日本女子大学 (非常勤) (Japan Women's University)

という項目がある。

ア 教育目標

- ・知性を高め、豊かな創造力を養う
- ・健康で自律の精神に満ちた人間性を培う
- ・誠実で実践力のある人間形成をめざす

イ 校訓



ウ 教育方針

- ・理想を求め、個性豊かな創造力を持つ人間の育成
- ・基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに健康で意欲的に学ぶ人間の育成
- ・努力を怠らず、正しい判断力を持って行動できる誠実な人間の育成
- ・郷土の自然や文化を愛すると共に、広い視野にたって国際社会に貢献できる人間の育成

(3) 生徒の実態

現在は1学年30名前後の生徒数(表1)で、女子の方が割合として多い。南砺市には8つの中学校があるが、利賀中学校出身者はいない(表2)。この地域の通学手段を考慮すると、近隣数都市の中学校から入学者がいるのは察があるという進学の特長からと思われる。

郷土芸能部、スキー部が全国レベルで活動し人気があるようであるが、生徒は郷土芸能部だけに所属することは認められず、必ず他のクラブ活動に参加しなければならないというルールがある。

表1 生徒実態平成28年5月現在

	男子	女子	計
1年	11名	18名	29名
2年	7名	25名	32名
3年	10名	21名	31名
	28名	64名	92名

表2 平成28年度在学生の出身中学校について

	男子	女子	合計
南砺市立平中学校	7名	13名	20名
〃 城端中学校	6名	7名	13名
〃 福光中学校	2名	3名	5名
〃 吉江中学校	0名	13名	13名
〃 井波中学校	1名	3名	4名
〃 福野中学校	1名	3名	4名
〃 井口中学校	0名	1名	1名
〃 利賀中学校	0名	0名	0名
南砺市出身	17名	43名	60名
砺波市立出町中学校	2名	7名	9名
〃 般若中学校	2名	2名	4名
〃 庄川中学校	1名	6名	7名
小矢部市立津沢中学校	0名	1名	1名
〃 大谷中学校	1名	0名	1名
〃 石動中学校	1名	0名	1名
高岡市立戸出中学校	1名	0名	1名
〃 伏木中学校	1名	0名	1名
氷見市立氷見北部中学校	0名	1名	1名
〃 灘浦中学校	1名	0名	1名
岐阜県白川町立白川中学校	1名	3名	4名
クアラルンプール日本人学校	0名	1名	1名
南砺市以外12校計	11名	21名	32名

2) 県立南砺平高等学校郷土芸能部の活動記録

平成元年に活動を開始し、1994(平成6)年から全国高等学校総合文化祭に出場し、その後2016(平成28)年度まで連続出場している。富山県および全国総合文化祭に参加するだけでなく、地元のイベント出演、老人ホームなどの慰問など年間30回前後地域活動に積極的に参加している。これは同校だけでなく全国総合文化祭郷土芸能部門参加校はどこも同様の活動をしている。

平成9年までは参加者の内、地元五箇山地方以外の出身者は1名であったが、同年郷土芸能が1年生の必修科目として取り入れられてから、五箇山以外の出身者が増えた。その後2006(平成18)年に最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した翌年からは五箇山以外の出身者が40名中10名と増えた。

文部科学大臣賞受賞後は、地元だけでなく世界バレーボール歓迎レセプションアトラクションや日韓交流(ソウ

ル)、NHK 出演など、地域からグローバルな世界へと活動が広がっている。同時に部員も地元出身者以外が増えていく。地元以外の生徒は1年次入学早々から踊りだけでなく、地方(じかた)、唄の練習もする。指導には地元の民謡保存会が、早朝、夜間に来校し指導する。寮に暮らす生徒たちにとっては何ら問題がないということである。平成26年度、全校生徒数がおおよそ100名であったとすると、部員48名は約半数の生徒ということになり、五箇山地区以外の出身者が37名つまり3/4は入学してから唄、地方(じかた)、踊りに関わるということになる。高校生にとって郷土芸能は十分に打ち込むに足る対象と言える。

地域住民にとっても郷土芸能の後継者として指導し、地元をはじめ県内外各地でのイベントに参加、演技を披露することで、地域の活性化に繋がっていると言える。また全国高等学校総合文化祭には地域をあげて応援し、開催県までバスを連ねて出向くのが恒例になっているほどである。

以下は南砺平高等学校郷土芸能部の歴史である。

平成元年 第1回富山県高校総合文化祭ステージ発表  
 平成2年 第2回県高文祭ステージ発表  
 平成3年 第3回県高文祭ステージ発表  
 平成4年 第4回県高文祭ステージ発表・地方(PTA)に保存会を配置  
 平成5年 第5回県高文祭ステージ発表・地方に(唄)に一部高校生が入る  
 平成6年 全国高校総合文化祭(愛媛大会)に初出場以後12年間連続出場  
 地方(唄・三味線)に高校生を配置  
20名(五箇山地区以外の生徒1名)参加  
 平成7年 全国高校総合文化祭(佐渡大会)地方はすべて高校生になる  
33名(五箇山地区以外の生徒1名)参加  
 平成8年 全国高校総合文化祭(北海道大会)  
28名(五箇山地区以外の生徒1名)参加  
 平成9年 全国高校総合文化祭(奈良大会)文化庁長官賞(ベスト4)  
36名(五箇山地区以外の生徒1名)参加  
郷土芸能クラブから郷土芸能部とする。(授業に「郷土芸能」を1年生に必修として取り入れる)  
 第8回全国高総文祭優秀校東京公演出演(東京・国立劇場)  
 平成10年 全国高校総合文化祭(鳥取大会)優良賞(ベスト8)  
41名(五箇山地区以外の生徒6名)参加  
 \*地域のイベント出演 慰問等複数回 以後

連続実施

平成11年 全国高校総合文化祭(山形大会)  
38名(五箇山地区以外の生徒4名)参加  
 平成12年 全国高校総合文化祭(静岡大会)  
40名(五箇山地区以外の生徒8名)参加  
 日本の響き大地の舞2000出演(名古屋市・愛知県勤労会館)  
 平成13年 全国高校総合文化祭(福岡大会)  
44名(五箇山地区以外の生徒8名)参加  
 優秀賞(文化庁長官賞)受賞(ベスト4)  
 第12回優秀校東京公演出演(東京・国立劇場)  
 平成14年 全国高校総合文化祭(神奈川大会)  
42名(五箇山地区以外の生徒8名)参加  
 優良賞(ベスト8)  
 平成15年 第27回全国高校総合文化祭(福井大会)  
43名(五箇山地区以外の生徒7名)参加  
 優秀賞(文化庁長官賞)受賞(ベスト4)  
 第14回全国高校総合文化祭優秀校東京公演出演(東京国立劇場)  
 平成16年 第28回全国高校総合文化祭(徳島大会)  
38名(五箇山地区以外の生徒3名)参加  
 第15回全国高校総合文化祭優秀校東京公演出演(東京国立劇場)  
 平成17年 第29回全国高校総合文化祭(青森大会)  
38名(五箇山地区以外の生徒5名)参加  
 優秀賞(文化庁長官賞)受賞(ベスト4)  
 第16回全国高校総合文化祭優秀校東京公演出演(東京国立劇場)  
 平成18年 第30回全国高校総合文化祭(京都大会)出場  
 部員40名(五箇山地区以外の生徒10名) 最優秀賞(文部科学大臣賞)受賞  
 第17回全国高校総合文化祭優秀校東京公演出演(東京国立劇場)  
 世界バレー歓迎レセプションアトラクション  
 北海道高文連50周年記念  
 平成19年 第31回全国高校総合文化祭(島根大会)出場  
 部員 47名(五箇山地区以外の生徒15名)  
 優秀賞(文化庁長官賞)受賞(ベスト4)  
 第18回全国高校総合文化祭優秀校東京公演出演(東京国立劇場)  
 平成20年 第32回全国高校総合文化祭(群馬大会)出場  
 部員 41名(五箇山地区以外の生徒17名)  
 日韓交流おまつり2008 in Seoul  
 平成21年 第33回全国高校総合文化祭(三重大会)出場  
 部員 41名(五箇山地区以外の生徒25名)

	優良賞受賞
平成22年	第34回全国高校総合文化祭（宮崎大会）出場 部員45名（五箇山地区以外の生徒27名） 優良賞受賞
平成23年	第35回全国高校総合文化祭（福島大会）に出場 部員45名（五箇山地区以外の生徒30名） 優秀賞（文化庁長官賞）受賞（ベスト4） 第22回全国高校総合文化祭優秀校東京公演 出演（東京国立劇場） 日本ユネスコ運動全国大会、全国教育研究大会 など
平成24年	第36回全国高校総合文化祭（富山大会）出場 部員50名（五箇山地区以外の生徒38名） 優良賞受賞、ふるさと教育富山賞受賞 第1回全国高校生伝統文化フェスティバル、 トヤマウタ出演（NHK）
平成25年	第37回全国高校総合文化祭（長崎大会）出場 部員45名（五箇山地区以外の生徒34名） 優良賞受賞 NHK 民謡魂 公開録画
平成26年	第38回全国高校総合文化祭（茨城大会）出場 部員48名（五箇山地区以外の生徒37名） 最優秀賞・文部科学大臣賞受賞 第25回全国高校総合文化祭優秀校東京公演 出演（東京国立劇場）
平成27年	第39回全国高校総合文化祭（滋賀大会）出場
平成28年	第40回全国高校総合文化祭（広島大会）出場

### 3) 全国高等学校総合文化祭

毎年7月末から8月上旬にかけて各県持ち回り、一つの県内で開催される高校生最大の芸術文化の祭典である。平成28年第40回大会は広島県で開催された。主催は文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、開催県、開催県教育委員会、開催市町村、開催市町村教育委員会である。開催県の高校生が生徒実行委員会を編成し、企画、運営、事後報告も行う。初日には総合開会式とパレードが行われ、規定19部門の舞台発表と展示発表のほか開催県独自の協賛部門が5日間の日程で繰り広げられる。部門によってはコンクールが行われているものもあり、全国から参加した高校生を対象に、講習会や交流会も行われる。全国から約2万人の高校生が集まり、会期中の観覧者は開催地の一般市民も含め約10万人にもなると言われる。

広島大会は25の部門があり、その一つ郷土芸能部門には「伝承芸能部門」と「和太鼓部門」がある。全国大会でそれぞれの部門で優秀な成績を収めると、上位2校は優秀

校東京公演（於 東京国立劇場）に出場できる。

伝統芸能部門の出演基準は下記の通りである。

演目は郷土的・地域的な特色をもち、地域の文化活動として広く住民に親しまれ、地域に根ざした伝承芸能であること。

ア 先人の遺産を保存し、今に伝える伝承芸能

イ 上記が現代においても継承され、地域に根ざした発展・変化を遂げつつある

ウ 新たな地域文化活動として創作されたものであり既に地域に広く定着しており、住民の手によって今後の発展が期待されるもの

\* 審査及び講評は部門に区別して行われる

\* 高校生以外の者が出演する場合には審査対象外とする。事前に事務局に伝える

会場には南砺平高校だけでなく、どこの出場校も応援の家族や地域住民と思われる観覧者が多数詰め掛けていた。真夏の日差しを受けながら時に数時間外で並ぶこともいとわれない応援体制であった。

全国にこれほど伝統芸能を受け継ごうという高校生がいて、真剣に取り組む、地域、仲間、家族と大勢の人々と交流しつつ、地域に根ざした発展・変化を遂げつつあることに感動するほどであった。

### 5. まとめ

富山県立南砺平高等学校および同校郷土芸能部を実践例として、伝統文化を学校教育の現場で行う意義について考察した。その結果、以下のようにまとめることができると考える。

- 1) 郷土芸能部が「伝統文化をやりたい」という生徒の受け皿、あるいは高校生活の「打ち込める対象」になっている現状から、高校生が伝統文化を学ぶ意義はあると言える
- 2) 伝統文化の継承は、地域内外の人の交流が活発化することから、地域の活性化に繋がる
- 3) 南砺平高等学校では生徒の出身地の範囲が広くなり、小中学生と高校生では、郷土の伝統文化の捉え方に段差がある

### 6. 今後の課題

演目については形だけでなく、伝統文化の背景や歴史、地域に関するの情報なども伝えないと、伝統文化の学び・継承にならない。そのために今後は以下の調査・検証が必要と思われる。

- 1) 富山県立南砺平高等学校郷土芸能部の活動について、より実証的な面から見ていく必要がある。
- 2) 利賀小中と南砺平高校、平小中と南砺平高校との繋が



りの調査

- 3) 全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門の意識調査（指導者、保護者も含め）

## 7. 謝 辞

温故知新プロジェクトにより、現地調査を行うことができ、多様な視点から利賀村および平の伝統文化の伝承、高等学校における伝統文化に関する教育活動、全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門についての検証の第一歩ができたことを心より感謝申し上げます。

## 文 献

- 1) 菱田隆昭・岩川真紀「『民謡』の学校教育への導入—戦後教育改革期の『学習指導要領』を中心として—」『こども教育宝仙大学紀要』第3号, pp. 67-74 (2012年)
- 2) 梅谷千代子・菱田隆昭・岩川真紀「富山県南砺市利賀村における民謡の伝承と地域の活性化に関する研究」——上利賀地区, 利賀中央地区の盆踊り——『比較文化史研究』第15号, pp. 47-58 (2014年)
- 3) 梅谷千代子・菱田隆昭・岩川真紀「富山県南砺市利賀村の伝統文化の伝承と地域の活性化に関する研究」—子どもの育ちを中心に—『生活科学研究所研究報告』第38集, pp. 1-5 (2015年)
- 4) 梅谷千代子・菱田隆昭・岩川真紀「伝統と文化」を尊重する教育活動について—富山県南砺市立利賀中学校の民謡学習を通して—『教員養成教育推進室年報』第3号, pp. 1-5 (2017年)